

作家のことば

レオノーラ・ミアノ

二〇一八年七月、作家のレオノーラ・ミアノ氏が来日し、舞台芸術公園での稽古に参加した。彼女の人柄に触れ、作品への理解を深める貴重な時間となった。同時代を生きる作家との対話、その一部を紹介する。

「奴隷貿易」を主題にしたのは？
私は、アフリカ大陸から連れ去られ大西洋で海の藻屑となつた人たちの魂を鎮めたいという気持ちで強くあります。アフリカの文化は先祖信仰に根差しているにもかかわらず、そこで亡くなった人たちはきちんと弔われていません。ましてやアフリカ国内に奴隷貿易に加担した人がいたという事実には誰も向き合わず、口を閉ざしている。私は芸術家として、あえて加担者に語らせるという手法を取り文学的な書いをしていと考えています。

「演出に宮城を指名した理由は？」
この作品で私は出身地であるカメルーンの神話を用い、女神が死者に語らせる力を持つという設定にしています。宮城さんが演出した作品を観て、自分の世界観を理解してくれるだろうと思いました。彼ならば、出てくる神様や霊たちに恐れをなさず、さっさと「詩」として演出してくれるでしょう。

「静岡では10代の学生がこの作品を観ます。」
客は、言葉の意味やアフリカの歴史などにあまり捉われなくてもいいのではないのでしょうか。セリフや演出の詩的な部分の美しさを面白さに心を動かされるのが重要です。それは若者だけでなく、大人にも言えます。

「日本人がアフリカの歴史を演じることは難しい？」
奴隷貿易は人類の歴史のなかで起きたことです。アフリカの歴史というより、人類が経験したとどとを考えています。ですから、アフリカ以外の人が上演することはもちろんあり得ますし、アフリカやヨーロッパから離れた人たちが上演することで、普遍的なものとして受け取られるようになるでしょう。「私は人間である。人間に関わることで私に無縁な事はない。一つもない。私はこの*テレンティウス*の言葉がすごく好きで、本当にそうだと信じています。」



レオノーラ・ミアノ Léonora MIANO
1973年カメルーン生まれ、91年よりフランス在住。2013年、奴隷貿易の淵源を描いた『影の季節』でフェミット賞を受賞。本作は15年に発表された『青の中の赤 3部作』の一遍。奴隷貿易や植民地支配を主題に現代アフリカの問題をどう捉えているのか。

文芸部 横山義志の フランス語講座

#3 Révélation

「顕現」と「啓示」

フランス語の原題は「レヴェラシオン révélation」。もともとの意味は「ベールを外して見えるようにすること」。そこから「ひらめき」、「明らかにされた新事実」、「(秘密の)暴露」といった意味になりました。宗教用語としては「啓示」と訳されたりもします。つまり、神がさまざまな物事を通じて自分の存在を人に伝えることを指しています。

「啓示/Révélation」は古代ギリシア語ではアポカリプシスといいます。英語・仏語で「(ヨハネの)黙示録」も指すアポカリプスはここから来ています。世界の終末は神の存在が露わになるところでもあります。

ミアノがこれほど重みを持った言葉をタイトルにしたのは、ここで明かされる奴隷貿易に関わったアフリカの人々の証言が一つの時代に終止符を打ち、新たな世界の始まりを告げるものになることを願っているからなのかも知れません。

舞台をつくる人 舞台音楽家 相川寛子

レオノーラ・ミアノさん
作品を作る前に、作家の言葉を聞けることはあまりない。

翻訳の平野さんが彼女に会いに行くと聞いた。太陽めたいに素敵なんだよと言っていた。貴重な事に彼女が来日して、稽古場にいらした。本当だった！
とっても素敵なお人になりました。

彼女に歌を歌って欲しいとおねだりしたら、心よく引き受けて歌ってくれた。船の上で海を前にして歌っている奴隷の気持ちを歌った歌。私には夜の暗い海が見えた。そして涙がこみあげた。本には楽器や音楽のイン・アウトの指定が細かく書いてある。けれど、私の音楽はそれにとらわれず作っていたので、心配していた。

彼女に聞いた、大丈夫ですか？
彼女はいっこり笑って、問題ないって言ってくれた。

「マハーバータ」と「ナバホ」を観て、私に作って欲しいと依頼してくれたこの作品を、難しい作品だけど、彼女に喜んでもらいたいと思いついて作っている。



舞台音楽家。2003年宮城聡演出『マハーバータ』で朝日舞台芸術賞を受賞。楽譜を使わない独自の作曲法を駆使し、『冬物語』『アンティゴネ』など数々のSPAC作品で舞台音楽を手掛ける。小学校や児童養護施設でのワークショップなども精力的に行う。



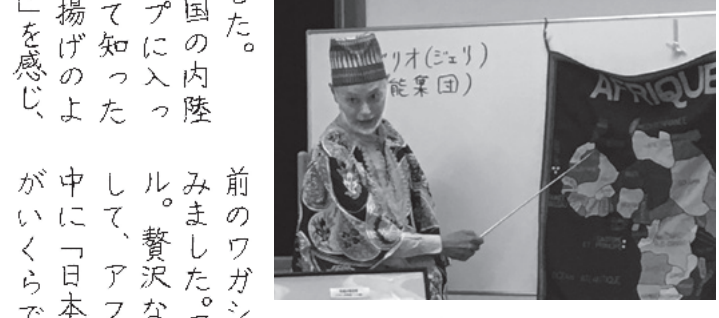
Watakushi no
Ikigomi-o, goran
kudasai.

幕間

アフリカ研究所 中村悟

インターネットで検索すると、西アフリカ料理に出会うことができます。が、それ以外にも「これはー」という食べ物に出会うことがあります。いつも素材や調理方法を確かめることは難しいのですが、アワレは、ナイジェリア国が発祥の豆腐です。素材は豆(多分大豆)で、3センチ角程度に切ったものを小型の塩ビ容器に入れて路上を売り歩いているものです。呼び止めて、渡される竹串に突き刺して、スパイスの効いた

インターネットで検索すると、西アフリカ料理に出会うことができます。が、それ以外にも「これはー」という食べ物に出会うことがあります。いつも素材や調理方法を確かめることは難しいのですが、アワレは、ナイジェリア国が発祥の豆腐です。素材は豆(多分大豆)で、3センチ角程度に切ったものを小型の塩ビ容器に入れて路上を売り歩いているものです。呼び止めて、渡される竹串に突き刺して、スパイスの効いた



前のワガシを買って、蒸してみました。固めのカーマンベール。贅沢な味わいです。こうして、アフリカの伝統文化の中に「日本」をみつける驚きがいくつでもあります。

編集後記

去年までお客さんとして読んでいた「すばく新聞」今年度SPAC制作部に入り、想像していたよりかはたくさんの方が新聞づくりに関わってくださることを感じました。SPACならではのこのメディアを、さらに探求していきたいと思います！
(制作部 西村 藍)

すばく新聞 第7号

以下制作部
写真 中尾 崇治
組版 布施 知範
編集 (演出担当) 米山 淳一 西村 藍
(広報班) 坂本 彩子 内田 穂子
計見 葵

物欲

なぜ人間の文化にだけ蓄積や進歩があるのか。人間は物に異様に執着するからである。動物の行動を観察したときに驚くことは、彼らがすぐに諦めることだ。ベストの食物を得られないと見るやすぐ、セカンドベストに切り替える。人間はベストにこだわり、「より多く」に執念をもやす。だから物の獲得のために試行錯誤を重ね、知識や技術を蓄積させてきたのだ。

人間性

越した知性の現れとされている「文化の蓄積性」である。集団としての「文化」は、サルやチンパンジーにもある。人間の文化にだけ見られる特徴は、前の世代が獲得した知識や技術に、後の世代が新たな知識や技術を付け加えることだ。

大澤真幸の

人間は物欲に過剰さ、いや非合理性がある。その証拠は、普通の人間の卓越した知性の現れとされている「文化の蓄積性」である。集団としての「文化」は、サルやチンパンジーにもある。人間の文化にだけ見られる特徴は、前の世代が獲得した知識や技術に、後の世代が新たな知識や技術を付け加えることだ。